

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	第5回桶川市地域公共交通会議
開催日時	平成29年10月18日（水） （開会）9時30分 ・ （閉会）12時00分
開催場所	桶川市保健センター3階 研修室
主宰者の氏名	桶川市長 小野克典
議長の氏名	桶川市副市長 松本幸司
出席者氏名 （委員）	1号委員：松本幸司 2号委員：長南克幸、山崎俊明、鈴木貴大、野口佳一 3号委員：熊谷恵一、高橋弘之 4号委員：鶴岡洋 6号委員：新井隆喜、仲又清美、新井孝雄、佐藤正廣、三澤みどり 7号委員：飯塚孝廣 8号委員：金子秀和 9号委員：岡村敏之、相沢興、畦地英樹、曾田信行
欠席者氏名 （委員）	2号委員：高橋直樹 3号委員：小谷彰治 5号委員：高原昭 9号委員：新井哲也、富岡洋
説明員氏名	ランドブレイン(株)太田真一
事務局職員 職名及び氏名	課長・折原和彦、主査・中野栄司、主事・虻川海
会 議 事 項	議 題
	【報告事項】 （1）桶川市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について （2）前回の振り返り （3）市内循環バス バス停間移動調査（OD調査）の結果について 【協議事項】 （1）市内循環バスの運賃改正（案）について （2）市内循環バスのルート（案）について
	決定事項等
配布資料	○委員名簿・座席表 ○資料1：桶川市地域公共交通会議設置要綱の一部改正 ○資料2：前回会議の振り返り ○資料3：市内循環バス バス停間移動調査（OD調査）の結果 ○資料4：市内循環バスの運賃改正（案） ○資料5：市内循環バス見直し検討スケジュール ●参考資料①：運賃改正（案）に関する資料 ●参考資料②：ルート（案）に関する資料

会 議 録 (2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会 ・ 会長あいさつ
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議は委員 25 名の内、20 名の出席。過半数の出席のため、要綱に基づき、会議は成立となる。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議は原則公開となっているが、本日の会議で、非公開とする事項はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ なし
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議はすべて公開とする。 ・ 本日の傍聴希望者はいるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴希望者なし
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議の会議録署名人は佐藤正廣委員にお願いする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承諾
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題のうち、報告事項 (1) 桶川市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明※資料 1 ・ 前回までの会議は、改正後の要綱に照らしても出席委員が過半数を超えており全て成立している。第 3 回会議の議決事項についても出席委員数全員の賛成であるため、議決として有効である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項 (2) 前回の振り返りについて
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明※資料 2
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項 (3) 市内循環バス バス停間移動調査 (OD 調査) の結果について
説明員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明※資料 3
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月と 10 月の調査結果で 200 人くらいの違いが発生している。9 月には敬老事業による 75 歳以上の循環バス無料券の利用がどの程度あったのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老事業による無料利用は、毎年、バス事業者が利用人数を集計し、その報告を受けているが、今年分はまだ集計が終わっていない。 ・バス停間調査は、車内のビデオ映像と実際に乗車しながらの目視での調査であり、調査での年齢層の判別は、調査員の主観で行っているため、曖昧な部分がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的に見た結果、高齢者はどの程度だったのか。 ・9月、10月での高齢者の割合はどの程度なのか。
説明員	<ul style="list-style-type: none"> ・全路線の詳細データは本日持ち合わせていない。 ・東循環について集計した結果、9月の高齢者の利用は100名であり、10月の利用は80名であった。今回の敬老事業で1.2倍の利用があったと考えられる。他の路線でも同様の傾向ではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の調査日は桶川西高校が休みだったので、9月と10月の西循環の全体の利用者の差の70～80人は西高の生徒に該当するのか。
説明員	<ul style="list-style-type: none"> ・9月は、駅から桶川西高校前バス停への利用が42名であり、西高前バス停から駅への利用については15名である。 ・9月と10月の利用者の差は、ほぼ西高の生徒に該当すると言える。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項（1）運賃改正（案）について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ※資料4、参考資料①
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料①の中で、運賃を値上げした場合、利用者の減少は20%と予測しているが、数字がざっくりしすぎている。 ・循環バス「べにばなGO」は交通空白地を埋めるものではあるが、一方では、通勤、通学で使う人もいる中では、料金については、民間バスとのバランスを考えると、値上げは仕方ないと思う。 ・路線バスのバス停が家から遠く、循環バスのバス停が近いという理由で循環バスを使っている人もいる。そのような中では、近くの民間路線バスのバス停に駐輪場を作れば、最寄りのバス停までは自転車で行き、そこから駅まではバスで向かうことができる。そのような施策を市の方で行うことで民間路線バスの利用促進にもつながるのではないか。 ・以前実施した市民アンケートでは、運賃が値上げされても利用したいかの意向調査はしているのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスが向上した時の妥当な運賃はアンケート調査を行っている。調査結果としては、現行のままが約 3 割、値上げしてもよいが約 7 割であった。 ・ 利用者、非利用者の別では、利用者としては安価な方がよいという意見は多く、約 5 割が現行のままがよいという答えであるが、非利用者としては現行のままが約 3 割であり、値上げしてもよいが約 7 割という結果をいただいた。 ・ アンケート以外の利用者に対する聞き取り調査では 8 割が現行の料金が妥当という結果であった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 9 年の 4 月に消費税が 3% から 5% に上がったが、便乗値上げは良くないと考えていた。それから、景気は上がったたり下がったりしており、平成 26 年には消費税が 5% から 8% に上がったときは運賃を 10 円上げ、180 円となり現在に至っている。 ・ 関越道でのバスの事故があつてからは、バス業界は国交省から監視が入り様々な機器の導入や、講習の実施を求められるなど切羽詰まっている状況である。 ・ それらを踏まえた中で、循環バスだけは今後も 100 円でやっていくのはどうなのかと思っている。上尾道路が伸びてきたことでバス停等の移設が発生し、運行経路も変わってキロ数が伸びているが、その経費は事業者負担という流れができてきており 200 円の値上げは歓迎する。 ・ 今回の循環バスの見直しの中では、市の方は循環バスの運賃について均一制で値上げも考えてくれていると理解している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下日出谷の停留所から川越の駅までバスを利用していた。片道 600 円の運賃がかかるが、利用している人は川島方面にも沢山おり、必要な路線である。桶川から川越までバスで座って行けることはありがたいという声も聞くため、既存の民間路線バスはそのまま活かしていただきたい。 ・ 二つ目は、広い視野で料金を考えていただきたい。専門的なことはわからないが、バスだけでなくタクシーのことも念頭に置いた料金設定が必要になってくる。 ・ そのための資金は税金から出てくる。現在の桶川市の税収は増加傾向にはない。さらに財政赤字も多く、その赤字分も償還できていない。桶川市の財政支出の穴埋めは後世に残ってしまうため、目の前のことだけではなく先々のことも考えながら料金設定を行っていくことが必要であると思う。 ・ その中で、200 円という説明もあったが、300 円でもいいくらいだと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の方からすると実質の手取り収入も下がってきているが、その一方で子どもの教育費など負担が増えてきている。それがここ 10 年、20 年の傾向である。そのような中で桶川市の循環バスが多く利用されているのは少しでも節約したいという考えを市民が持っているからである。 ・桶川市もそれは受け止めて運賃を 100 円に保っている。年間 5,000 万円の持ち出しはあるが、年間 28 万人が利用しており、人口割でも 1 人当たり年間で約 4 回使っている。 ・循環バスが便利であるため利用している人もいるが、循環バスの目的は交通弱者の救済が主である。 ・循環バスの見直しは税金の使い方の問題でもある。現状の支出である 5,000 万円という負担があるが、この他にも市全体では福祉や教育などの面で多額の費用がかかっている。それらのことも踏まえた中で利用者別での料金の見直しも検討していかなければならない。 ・循環バスは一つの公共交通として重要な役割を持っており、料金の見直しは市民生活の中では深くつながるものであるため、料金の見直しは市民に理解を得られるよう親切・丁寧な議論をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー業界として、運賃 300 円は賛成である。 ・ルートの変更で、駅への速達性を早めていく方向にあると思うが、既存の民間バス事業者やタクシー事業者への脅威となる。 ・料金の面でも、タクシーは初乗り料金は 730 円である。その中で循環バスの運賃が 300 円になった場合は、仮にタクシーを 2 人で使っていたら負担は、ほぼ同額となる。 ・値上げしたことで、財政面で負担が浮いた分はデマンド交通などの導入にもつながるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃を今まで 100 円にしていたことや、ルートの変更の期待は高いことから、運賃 200 円は良いと思う。 ・桶川市の政策であるため、桶川市として、どの事業を優先的にやるかが問題である。 ・加納や川田谷のような調整区域は人口の伸びがあまりない。思い切って小学生以下は無料にするなどの政策を行うことで、子育て支援事業のような政策を行いながら、調整区域への居住を呼びかけることもありなのではないかと思う。 ・タクシーについては、川田谷地区は商店が少ないため、買い物が大変であり、バスの利用も促している部分があるものの、バスは時間がある程度決まっているので、地域からは時間に縛られないデマンドタクシーの要望もある。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシーも今後は乗合型へ変わる可能性もあるため、デマンドタクシーのようなものもよいのではないか。デマンドタクシーについてはこの会議の中で整理できたらよいと思う。 ・ 基本料金を値上げした場合、利用率が 20%減るという中で 150 円、200 円は想定されるが、300 円、350 円とした場合でも利用率の減少が同じ 20%というのはどうなのか疑問を持つ。 ・ 過去のべにばなGOもそうであるが、少しのルートやダイヤの見直しを行っただけで、半年くらいは利用率が落ちる。 ・ このシミュレーションの 20%減も、一時的なものなのか、それとも永続的な減少なのかで議論は変わってくる。 ・ 私自身の想定だと、150 円の場合は 10%くらい減り、28,708,000 円ではなく、32,228,000 円である。すなわち、収入は現行に比べて、約 40 万円アップする。200 円となると利用率は 20%減少すると考えられる。駅から半径 1.5km の人は、バスではなく徒歩で移動すると思う。桶川市の循環バスは駅への利用が大半であるが、東側は国道 17 号線より駅寄りの人はバスは使わないと推測される。さらに基本料金が 300 円に値上げされた場合は、往復 600 円であるため、たばこ 1 箱よりも高く、利用率は一層下がると推測され、利用率が 40%くらいは下がると思われる。 ・ 値上げが大きすぎると、その分利用率は減ってしまい、運行収入の大幅な向上にはつながらなくなるが、現行の運賃から値上げすることは大変歓迎すべきことである。 ・ 現在は様々な自治体で運賃の値上げを検討している中では、値上げの好機は今しかないと考えている。これが民間事業者であれば、この機を逃さずに値上げをすると思われるが、自治体の場合はそうでない。しかし、この見直しで値上げはするべきと思う。 ・ 桶川市の人口は横ばいではあるが、バス運転手の数は減っている。大型 2 種免許取得者が平成 13 年度からおよそ半分まで落ち込んでいる。事務局の説明の中で毎年 1%ずつ運行経費が上がってくるとあったが、このままだと 2025 年辺りで一気に運行経費が上がってくる可能性がある。 ・ これらを踏まえた中で、基本料金の値上げを行っただけがよい。1 回だけではなく、今後も料金は上げていかなければならないため、慎重な議論が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上尾市の人口は約 28 万人であり、企業もたくさんある。その中でバス事業に 7 千万円の税金を費やしている。桶川市の人口は 7 万 5 千人であり、5,800 万円の税金を費やして

委員	<p>いる。また、桶川市には目立った企業が上尾市ほど無い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口に対する財政負担額の比率から見ても上尾市の運賃100円と桶川市の運賃100円は違う。 ・人口の比率や税収、民間路線バス事業者やタクシー事業者のことも考慮した基本料金の設定を考えていくべきである。 ・モノの値段は2通りの決め方があると思う。 ・1つ目は、原材料や配送料などのコストを積み上げていきながら決めていく。2つ目は消費者がそれに対していくらの価値を見出すか決めていき、この2つの均衡が図られたところがモノの値段であると思う。 ・この後には、ルートやダイヤを決めていかなければならないため、今の時点では運賃を値上げする方針だけを前提として議論を進めていった方がよいのではないか。 ・その中で、ルートやダイヤがその運賃の付加価値に見合うよう上げ幅を決めていった方がよいのではないか。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの意見について、事務局から見解を。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃は今まで見直しを行ってこなかったことや先ほども発言があったように運賃値上げの好機であるというところもあり、委員からも値上げをした方がよいという声もあるが、現状のままの据え置きの方がよいという意見もある。 ・基本方針でもお示しした持続可能な料金設定を念頭に基本料金を設定することが大事と考える。 ・この場で料金の値上げを前提に議論を進めた方がよいという意見もいただいたが、まだ決を採る段階ではないと考える。 ・料金については、いただいた意見を持ち帰り、皆様の意見を総合的に検討し、基本料金の設定をしていく必要があると考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状ではタクシーの利用は減少してきており、北本、上尾、桶川、吹上を管轄している中で、特に桶川の売り上げが低い。料金設定やルートの変更はさらに深刻な影響がありタクシーに打撃を与える。 ・説明の中では、今後も均一制の料金が望ましいということであったが、民間路線バスは従量制であり、タクシーも時間距離併用制である中で、循環バスが均一制にこだわるのはいかがなものか。 ・均一制だけではなく、従量制等にも念頭を置いていただきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市で大きな再編があり、ルートと運賃を見直した。結果としては運賃を上げた分、利用客は大きく減少したが、収入額、支出額とも変わらなかった。 ・これは想定内であり、路線バスと重複していたルートの運行を多くやめたことで、路線バスの利用者数は増えた。 ・路線バスと競合していないルートはあまり減っていない。 ・元々、バスの本数が少なかったところについては、本数を増やし、40分おきのダイヤにしたことで利用客が大幅に増えた。もう少し迂回をうまくすることで黒字になるところまでいっている。 ・今の桶川市の循環バスのルートも路線バスと重複しているところがたくさんあり、それはあまり変えずに見直すとなると利用率は路線バスと半々の試算となる。 ・路線バスが入っていないところは200円にしても利用率の減少は1割程度であると考えられる。 ・料金については財政支出として桶川市の負担をどれくらいまで減らしたいということを設定すれば、それがスタートになる。 ・料金を100円のままで桶川市の負担額を下げると言うのであれば今走っているバス4台を2台にして、東循環と西循環だけにして、運賃は無料にすれば運行経費は8,000万から4,000万になり、利用客は喜び、財政支出は減るが、この案に賛成する者は誰もいないと思う。 ・そうすると、地域の人が移動しやすいのは値段が安いだけでなく利便性との兼ね合いの中で考えていかなければならない。 ・今までの議論では、路線バスとの均衡を考慮する中で、桶川市の循環バス利用客は駅の利用がほとんどであり、一般的な路線バスと同じようなものとして便利なバスを求めているため、基本料金が路線バスと同水準であるのが妥当であると思う。 ・桶川市の循環バスが4路線ある中で、全てが同じ値段である必要はなく、路線ごとの行き先によって値段が異なることの市民の理解は得られると思うが、それが300円または400円だと厳しいと思う。 ・また、均一制であることも良いとは思いますが、それにこだわる必要もない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃について考えていただきたいのは、この地域を今後どうしていきたいかが重要である。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項(1)運賃改正(案)を視野に入れつつ、協議事項(2)市内循環バスルート(案)について協議をお願いしたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・説明 ※資料 5、参考資料②
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・桶川市の循環バスは他の市町村よりも利用率が高い中で、本当に見直すべきなのか疑問である。我々のほうで資料を作ってきたので説明させていただきたい。 <p>※以下説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桶川市の人口は、2025 年まではほぼ横ばいであるが、2025 年から 2030 年にかけて一気に落ち込む。 ・2030 年からは公共交通に頼って移動する年齢層が減少する。 ・埼玉県全体での普通免許取得の動向は、毎年、県人口の 1%の人が取得している。平成 21 年はリーマンショックで免許取得者が落ち込んだ。免許取得者数の推移は平均年収と類似した傾向である。 ・今後、自力で自動車等で移動できる人は減ってくる。2025 年から 2030 年くらいが公共交通に依存してくる人が増えるターニングポイントではないかと思う。 ・循環バスに関して、他市も含めて考えると所要時間が短い方が利用率は高い。 ・桶川市の循環バスは路線の所要時間は短く、1 時間あたりの乗車人数は 2 路線で 20 人を超えている。また、残りの 2 路線に関しても 10 人超である。1 日当たりで見ると 200 人の利用があるので、多くの方に利用してもらっている。 ・桶川市の人口密度はあまり高くなく、自家用車保有率は 50%である。 ・桶川市の循環バスは、市民の人口換算では 3.73 回使っている計算である。これは他の市町村と比べるとダントツである。 ・成功しているものを変えることほど怖いものはない。これほどの利用があるということは市民から支持されている表れでもあるので、そのことも考慮したほうがよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート案 1 又は 3 のどちらかと言うことであるが、私たちは東側の路線バスを運行している中では、ルート案 1 だと競合している箇所が多い。これに対しルート案 3 の折衷案のほうが競合している箇所が少ないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・東西循環内回りの朝日、神明地区の利用は少なく、資料 3 では運行形態の再編が必要であると書かれていた。 ・かろうじて利用のないバス停はなかったが、今後利用のないバス停に関しては再編やバス停の廃止等はあるのか。 ・今回の乗降調査は 9 月と 10 月の 1 日行われただけであ

事務局	<p>て、たまたま利用が無かったり、利用者が 1 人だけの場合もあり得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環バスは市民サービスが目的であり、利用者が 1 人でもいれば、利用が少ないため廃止するという考えはやめていただきたい。 ・中型の車両が道路の事情で通行が困難で利用人数もそれほど多くない場所に関しては、住宅地なども通るため小型の車両を走らせたり、デマンド交通を導入することで運行経費の削減につながり、市民サービスが廃止されるという懸念もなくなる。 <p>・資料 5-3 では朝日、神明地区のルートは点線で結んでおり、駅の東西を跨いで移動する人は少ないため通常のバス車両を走らせるのがよいのかどうか疑問に思うところがある。</p> <p>・また、夜間の利用がない中で時間に応じた間引き運転を行うことも必要ではないかと考えている。</p> <p>・駅への利用がほとんどであるため、線路を渡らずそのまま駅へ向かうルートを設定できれば逆に朝日、若宮地区については利便性が変わる可能性がある。</p> <p>・そういった見直しで所要時間削減が図れれば、郊外の本数を増やせるかもしれない。</p> <p>・委員からもあったようにワゴンタイプの車両を走らせるのも 1 つの手であるのかもしれないが、これだけの時間を走って利用者が 1 人や 2 人と言うのであればルートの再編も考えなければならない。</p> <p>・朝日、神明地区においては十分検討していかなければならないと考えている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート案 1、3 の表記の仕方で西側は分かり易いが東側は線が重複して見づらい部分がある。 ・ルートごとに資料を作ってほしい。1 つの地図にこれだけのルートを重ねて表記すると分かりづらくなってしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議ではもう少し見やすい資料をお示ししたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先程の説明の中で中型車両が通れる、通れないの話があったが、通りにくい箇所を通す際には警察や道路管理者としっかり調整をしていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各ルート案でそれぞれの考え方があと思うが、各地区におけるバス停や路線の廃止や増便については地域住民にしっかりと説明して納得してもらわなければならない。その中でこの 2 つのルート案だと少し難しい部分がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・率直に言うと、今、線を引いているところで増便や減便になる、または路線が廃止になるという場合に、その点が議論になるとそれらの理由が書いてある表が必要になってくる。 ・先ほども委員からあったように、南側の朝日、神明地区については、利用客は少ないが路線は必要であるという意見もある中で、廃止や再編を検討するというのであれば、説明するための数字や資料も必要になってくる。 ・数字の出し方としては、ざっくりとしたものになるがバスの運行時間が1周40分であるのに対しての運行経費が4,000円から5,000円であり、それを1分単位で考えると100円であるようなことで考えていけば、バス停の利用者数でもルートの見直しや増便、減便の優先度がわかってくるのではないか。 ・駅への速達性を重要視するなら、このルート案1と3では不透明な部分があり、細かすぎる数字ではなくわかりやすい数字で示せばより議論しやすい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・数字や資料の準備については十分検討させていただきたい。次回以降、委員の皆様が見てわかりやすいような資料で議論していただき、ルート案を決めていただきたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート案1と3では、西側においてはどうしても民間路線バスと重複するところが多くなってしまう。路線バスとの共存を図るに当たって、これほど重複しているのはどうかと思う。 ・このままでは10年後、20年後に共倒れも考えられるので、重複しているところを見直す検討はしておいた方がよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日、神明地区の路線がなくなると、住民からの反発もあるが、タクシーなどの補助があると納得してもらえるのではないか。ただ廃止するのではなく、そのあとのフォローも用意しなければならない。 ・市民が市内若しくは近隣市町村に行き来できるよう循環バス事業者や民間路線バス事業者、タクシー事業者の3社が協調していくことがこの会議の着地点である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長会議で循環バスの路線が廃止されるのでは、といった声も出てきている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート案については簡単に決まらないことは理解している。この会議である程度の考え方をまとめて地域に説明し

	<p>ていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この会議として考え方をまとめるための期限を意識しながら、会議を進めていきたい。そのためには、資料等をよりわかりやすく作って、委員に提示していくよう努力する。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料6：市内循環バス見直し検討スケジュールについて
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールに関しては、必要なだけ会議を重ねながら、区長会を通じた説明会、パブコメに進んでいきたい。 ・現在の検討状況から本格運行開始時期は「●年●月」と表記しているがご理解いただきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等が無いようなので閉会とする。 ・閉会

平成29年11月20日

会議録署名人： 佐藤正廣